

一般研究集会 (課題番号 : 29K-08)

集会名:新しい災害報道スタイルに関するマスコミ関係者と災害研究者による共同シンポジウム

公開シンポジウム「つながる, つなげる ―災害情報の地域ネットワーク―」

主催者名: 日本災害情報学会

研究代表者: 近藤誠司

所属機関名: 関西大学社会安全学部

所内担当者名: 矢守克也

開催日: 平成 29 年 10 月 21 日

開催場所: 京都大学宇治キャンパスおうばくプラザ (きはだホール)

参加者数: 約 210 名 (所外約 195 名, 所内 15 名)

- ・大学院生の参加状況: 5 名 (修士 2 名, 博士 3 名) (内数)
- ・大学院生の参加形態 [発表の補助業務]

研究及び教育への波及効果について

当該一般研究集会 (災害情報学会公開シンポジウム) は, 災害情報研究をテーマとする国内唯一の学会組織である災害情報学会の年次発表大会にあわせて開催された。登壇者は, 災害報道に従事した経験をもつ現役のジャーナリストであり, 来場者は第一線の研究者が多数参加した。そこでは, 災害情報研究に関する最先端の研究成果をふまえて, 災害報道を充実化するための様々な知見が共有された。京都大学防災研究所に所属する研究者, 大学院生も多数参加し, 防災研究所が推進する学際的な防災研究および教育の推進に大きな波及効果をもたらしたものと考えられる。

研究集会報告

(1) 目的

減災や復旧・復興に果たす災害報道の役割は, 今日ますます高まりつつある。また, 近年, 東京, 関西, 名古屋, 高知などの地域で, 災害報道の実務にあたるマスコミ関係者と災害研究者が日常的に研究集会を開催し相互交流するフレームワークも形成されてきた。本シンポジウムは, こうしたフレームワークの意義と課題について論じ, あわせて, 今後の減災・復旧報道の改善に資する知見を得ることを目的とする。

(2) 成果のまとめ

当該シンポジウムでは, 登壇者に, 豊富な災害報道の経験があり, すでに地域ネットワークの構築に尽力している現役のジャーナリストを招き, 活発な議論を展開することができた。名古屋市を拠点に, すでに 10 年以上も専門家や行政職員が連携して交流会・学習会をおこなっている「NSL」のメンバーからは, ネットワークの取り組みを持続していく上での課題や工夫に関する報告があった。関西を拠点に活動している「関西なまずの会」のメンバーからは, 新旧・両世代の連携と伝承, 新メンバーのリクルートや活動の活性化に関する報告がなされた。そして, 仙台を拠点に活発な展開をはじめている「みやぎ防災・減災円卓会議」のメンバーからは, 現場に近い若手メンバーの参加の機会を増やすことや, 連携によって防災力を実質的に高めるための必要性にかんして問題提起がおこなわれた。当該シンポジウムの総括として, 「ネットワークをネットワークすること (地域連携のフレーム同士を横につなぐこと)」が提言され, その後, 実際に“横連携”のアクションが生まれている。

(3) プログラム

第 19 回日本災害情報学会大会の初日に実施

平成 29 年 10 月 21 日 (土)

14:30 受付開始 15:00 開演 17:00 終了

司会 大窪 愛 NHK 静岡放送局キャスター
進行 近藤 誠司 関西大学社会安全学部
パネリスト 武田 真一 河北新報社 (みやぎ防災・減災円卓会議)
西田 征弘 CBCテレビ (NSL)
木戸 崇之 朝日放送 (関西なまずの会)

(4) 研究成果の公表

予定なし